

## 第2回検討会における主な御意見

## 第2回検討会における主な御意見

- 母子手帳を日頃から持っていないということがあります、スマートフォン等を活用してはどうか。
- 電子お薬手帳の活用方法の一つとして、妊産婦の情報提供等を行うことを考えてはどうか。
- 母子手帳には子どもの情報も記載されるため、電子化がスムーズにできるか迷うところがある。母子手帳交付時に、母親の体調等を記載するページへの記入を促すような声かけをするのは良いのではないか。
- 妊産婦が歯科を受診したときに、健診以外のページを見られることに抵抗を感じる方がいる。歯科医師が歯科診療で必要な情報を受け取ることができるよう啓発等が必要。
- 電子化には時間がかかると考えられるため、既にあるものを活用してはどうか。母子手帳を診察券と一緒に提示してもらう等の医師や助産師さんの声かけがやりやすいと考える。
- 母子手帳を持っていない妊産婦に会うことがあります、産婦人科の医師等からの声かけが必要。
- 母子手帳の大きさが複数あるが、あまり大きな荷物にならないような配慮が必要。
- 母子手帳にかかりつけの医療機関を記載する欄や、産婦人科以外の診療科が記載できる欄があれば良いのではないか。
- 妊産婦の診療に積極的な医師もおり、何らかの形の評価があれば僻地等の産婦人科へのアクセスが困難な地域においてうまく機能するのではないか。
- 妊産婦の診療に当たって、医師が教育用の資材で学習できるような仕組みがあれば、妊産婦の方が安心して内科等を受診することができるのではないか。

## 第2回検討会における主な御意見

- 薬局において、妊産婦の薬に関する不安を解消できるように、コミュニケーションスキルの研修等を通じて、ボトムアップをはかることが必要。
- 精神疾患がある妊産婦の内服薬を中止してよいかの判断をすることが、産科医には難しく、問題になることがある。
- 妊産婦に対する薬の添付文書の記載と、学術的に許容されている内容にギャップがある。現場に即した情報に全ての医師がアクセスしやすい体制が必要。添付文書の記載についても検討が必要。
- 薬の添付文書について、妊産婦と小児に対する記載が変わると思うので、事務局から説明して欲しい。
- 科学的エビデンスだけではなく、リスクコミュニケーションが重要。